

和泉

九日 前六時三十分頃、学校当局の要請で七〇〇人の機動隊が和泉キャンパスに出勤した。和泉キャンパスは、日多くの全共闘派学生が泊り込んでおり、多い時には一〇〇人近を数えた。しかし、この日はいち早く機動隊の導入を察知して、前夜から全員引き退き、壁や机・椅子に隠れられた多くの落書きが無言の抗議を示している。機動隊は、和泉キャンパスの入り口にバリケードを築き、機動隊の侵入を阻止した。バリケードは、事務室のある二校舎が頑丈に組まれており、機動隊は、二校舎のバリケード撤去にはちも手こずった。だが、午前七時すぎには正門のバリケードに使われた机・椅子のとり外し完了。「自分の間休校とする。教職員以外のもうを禁止。無断で立入る。法律により取り扱われる」との理事長・

落書が無言の抗戦

破損がひどい第一校舎

校長・学長名のロックアウト声明が正門脇の守衛所に貼り出されると、ただちに、業者の手によって厚いベニヤ板の扉が各入口に出来、来校者をシャットアウトした。正午ころになると、サークル活動や生協利用の学生に混って縄を登校する教職員が目立った。昨日まで全共闘派の学生に追い出されてきた教職員達が、今日からは逆に学生を締め出して学内に入る姿に一般学生がうらめしそうに見入っていた。機動隊は扉には大方が引き上げたが、一時は和泉校舎の周囲五十メートル圏内に数百人の機動隊員が待機して物々しいほどの捜査体制が敷かれ、付近はしばらく緊張が解けなかった。ニュースその他で知って様子を見にくる学生は数少なく、登校する学生も興味なさそうに学校側の休校の声明を読んで帰る者が多かった。機動隊の一部は和泉校舎近辺に残留し、夜半まであたりを警戒していたが、何事もないうまま引き上げた。学生の立ち入りを禁止した構内は静かだが一号館・研究室の荒廃・雑然ぶりに驚く教職員が多く復旧に手をこまねいていた様子も印象的であった。特に一号館は各室とも闘争委員会室として使用されていたため落書きや机・椅子の破損はひどく、平常の授業が出来なくなるまでの復旧には相当の時間がかかるものとみられている。なお、この日、大学当局は正門前で駐留する機動隊員を横に学生にロックアウトの状況説明のビラを配布した。

五日キャンパス

生田

五日 前六時三十分頃、学校当局の要請で七〇〇人の機動隊が和泉キャンパスに出勤した。和泉キャンパスは、日多くの全共闘派学生が泊り込んでおり、多い時には一〇〇人近を数えた。しかし、この日はいち早く機動隊の導入を察知して、前夜から全員引き退き、壁や机・椅子に隠れられた多くの落書きが無言の抗議を示している。機動隊は、和泉キャンパスの入り口にバリケードを築き、機動隊の侵入を阻止した。バリケードは、事務室のある二校舎が頑丈に組まれており、機動隊は、二校舎のバリケード撤去にはちも手こずった。だが、午前七時すぎには正門のバリケードに使われた机・椅子のとり外し完了。「自分の間休校とする。教職員以外のもうを禁止。無断で立入る。法律により取り扱われる」との理事長・

順調に撤去作業進む

五〇〇人の機動隊が出動

ケドはそれ程頑強ではない。八時三十分ほぼ撤去作業は完了し、三十分後、機動隊が生田から消えた。現場作業員らが復旧作業にあたったが荒廃が著しいのは、工闘委などのアシドとなっていた工学部校舎で、足踏み入れると異様な薬品の悪臭が鼻を突いた。壁と床の間に異様な鮮烈な落書きがなぐり書かれている。「先生は自分の利益を守らんがためにわれらを国家権力に売って渡して、笑ってみているんでしょ」、「無能教授退放」などそれは様々。中でも事務室の荒れ方は惨々たるもの。カゴは割れ、部屋中に粉料が吹き散らされたままにサライクリーンが感じしうらした。修復にあたり、この作業場、このあり様を「手がつげられません。一般学生に見せたい程です」とおぼろげに、各研究室は各闘争委員会が使用していらしく、要所要所にバリケードも組まれていた。工学部校舎に社学同赤軍派とみられる、戦争勝利、この落書きが無意味だった。建築科の校舎の荒廃はそれ程顕著ではなく農学部もバリケードに用いられた机や椅子は作業員の手では簡単に元通り戻された。また二階に空いて四〇〇本程が置かれ、屋上にそそげのコンクリート椅子四〇が無惨に壊され投石用と化していた。この日キャンパスは、かつての学生の姿に替って、数十名の教職員で占められた。慣れないヘルメットを着用する人も見られ、以前の学生による封鎖を見慣れた者には、何か異様な感じさせた。屋外くなら、ロックアウトのための扉・鉄線が徐々にめくられ、新たな情景を創出した。

△▽